

平成22年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月16日

上場会社名 キリンホールディングス株式会社 上場取引所 東・大・名・札・福
 コード番号 2503 URL <http://www.kirinholdings.co.jp/>
 代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）三宅 占二
 問合せ先責任者 （役職名）執行役員コーポレートコミュニケーション部長 （氏名）小川 洋 （TEL）03-5540-3455
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月16日 配当支払開始予定日 平成22年9月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成22年12月期第2四半期の連結業績（平成22年1月1日～平成22年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第2四半期	1,010,177	△4.7	59,826	48.9	56,298	△0.2	7,156	△52.2
21年12月期第2四半期	1,060,423	—	40,175	—	56,388	—	14,955	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年12月期第2四半期	7	51	—	—
21年12月期第2四半期	15	67	15	67

（2）連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
22年12月期第2四半期	2,765,240	1,207,354	996,632	996,632	36.0	1,045	56	
21年12月期	2,861,194	1,198,869	981,322	981,322	34.3	1,029	35	

（参考）自己資本 22年12月期第2四半期 996,632百万円 21年12月期 981,322百万円

2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
21年12月期	—	—	11	50	—	—	11	50	23	00
22年12月期	—	—	12	50	—	—	—	—	—	—
22年12月期（予想）	—	—	—	—	—	—	12	50	25	00

（注）当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成22年12月期の連結業績予想（平成22年1月1日～平成22年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	2,180,000	△4.3	133,000	3.6	125,000	△13.6	35,000	△28.8	36	72

（注）当四半期における業績予想の修正有無：有

4. その他（詳細は、【添付資料】5ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 ー社（社名 ） 除外 ー社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年12月期2Q	984,508,387株	21年12月期	984,508,387株
② 期末自己株式数	22年12月期2Q	31,307,223株	21年12月期	31,167,235株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	22年12月期2Q	953,234,445株	21年12月期2Q	954,298,883株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社および当グループが本資料の発表日現在で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、当社および当グループの事業をとりまく経済情勢、市場動向、為替レートなどに関わる様々な要因により、記述されている業績予想とは大幅に異なる可能性があることをご承知おきください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	6
(4) その他	7
3. 連結財務諸表等	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	13
(5) セグメント情報	13
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	16
(7) その他注記事項	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間(平成22年1月1日～平成22年6月30日)の世界経済は、ヨーロッパを中心に景気回復停滞のリスクはあるものの緩やかに回復しています。日本経済についても、海外経済の改善を起点に着実に持ち直してきています。

このような状況の中、キリングroupは、キリングroup長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2015」(略称:KV2015)実現に向けた第2ステージである「2010-2012年キリングroup中期経営計画」初年度において、質的拡大に向けた取り組みを着実に実行しました。

その中で、グループ企業間の連携の一環として、“キリンの健康プロジェクト”の活動を開始し、お客様の健康ニーズに応える新たな価値の提供を目指し、4月にグループ企業4社(キリンビール㈱、キリンビバレッジ㈱、小岩井乳業㈱、キリン協和フーズ㈱)よりグループ横断ブランド「キリン プラスアイ」の第一弾商品を発売しました。

また、「食と健康」領域への事業集中に向け事業ポートフォリオの見直しを進め、3月のキリンアグリバイオ㈱及びキリンアグリバイオイーシー社の全株式売却に続き、6月には連結子会社である㈱ナガノトマトの食品製造販売事業の売却を決定しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、主にナショナルフーズ社の決算期変更により減少しましたが、コスト削減効果や協和発酵キリン㈱の化学品事業の業績回復等により営業利益は増加しました。また、経常利益、四半期純利益は為替差損の影響等により減少しました。

連結売上高	1兆101億円	(前年同期比	4.7%減)
連結営業利益	598億円	(前年同期比	48.9%増)
連結経常利益	562億円	(前年同期比	0.2%減)
連結第2四半期純利益	71億円	(前年同期比	52.2%減)

さらに、7月26日には、マレーシア、シンガポールで第1位の飲料事業等を有するフレイザー・アンド・ニュー社の株式のうち14.7%を、同社の株式を保有するテマセック社(シンガポール)の100%子会社であるセレーター・インベストメンツ社から相対取引で取得することを決定しました。今回の資本参加により、急成長を続ける東南アジア市場における事業基盤拡大の機会を得ると共に、フレイザー・アンド・ニュー社との協働を通じて、両社のさらなる企業価値向上を目指しています。協働可能な領域については、今後、フレイザー・アンド・ニュー社との間で協議を進めます。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

<酒類事業部門>

国内酒類事業では、キリンビール㈱が、商品戦略の3つの課題である「定番商品強化」「健康志向への対応強化」「総需要拡大」に引き続き取り組みました。

主にビール・発泡酒市場が生活防衛意識の高まり等の影響で縮小する中、キリンビール㈱では、ビール市場において「キリン一番搾り<生>ビール」が2009年のリニューアルに合わせた大規模プロモーションの反動があったものの市場平均並み※に留まり、また、発泡酒市場では、「淡麗」シリーズが市場を上回って※推移する等堅調に推移しました。

※当第2四半期累計期間(平成22年1月1日～平成22年6月30日)課税出荷数量ベース

一方、拡大が続く新ジャンル市場においては、各社新商品投入が続く中、2005年の発売から5年を迎え、圧倒的な地位を堅持している「キリン のどごし<生>」を6月からリニューアルし、一層の支持拡大に努めました。

また、ノンアルコール・ビールテイスト飲料市場に向けては、2009年の発売以来、好調な販売を継続している「キリンフリー」に続き、4月にグループ横断ブランド「キリン プラスアイ」から「キリン 休む日のAlc.0.00%」を発売しました。「休肝日」という新しい提案にお客様からの支持が集まり、発売以来2ヶ月で年間販売予定数を達成したことから、目標を約2倍に上方修正しました。

RTD※市場においても、2月に発売した「キリン 世界のハイボール」が予想を上回る好評により年間販売予定数を大幅に上方修正しました。

※RTD: Ready to drinkの略。栓を開けてそのまま飲める飲料。

さらに、サッカーワールドカップ開催に合わせて、歴代サッカー日本代表ユニフォームをモチーフにした応援缶を発売する等、日本代表を盛り上げました。

メルシャン㈱は、生活防衛意識の高まりから輸入ワイン等の中高級価格帯商品が影響を受けたものの、家庭用市場向けの国産・輸入のデイリーワインが好調でした。また、ロゼワインの販売についても、世界的なロゼワイン人気のトレンドにあわせ、積極的なプロモーション活動を展開した結果、好評を得ました。また、7月1日をもって、メルシャン㈱と協和発酵バイオ㈱の原料アルコール販売事業を、両社の合弁新会社となる第一アルコール㈱に統合しました。

海外酒類事業では、ライオンネイサン ナショナルフーズ社の酒類事業が、中核の豪州ビール事業において、プレミアムビールや高付加価値ビールの販売強化に引き続き取り組んだことにより、基盤ブランドが堅調に推移しました。

厳しい競争環境が続く中国においては、総合飲料グループ戦略を柱として、長江デルタ・珠江デルタ・東北三省を中心に引き続き販売強化に努めました。

これらの結果、ライオンネイサン ナショナルフーズ社の酒類事業が為替の影響を受けたことや、キリンビール㈱のコスト削減効果等により、売上高、営業利益はともに増加しました。

酒類事業部門連結売上高	5,142億円 (前年同期比 3.1%増)
酒類事業部門連結営業利益	454億円 (前年同期比 18.4%増)

<飲料・食品事業部門>

国内飲料・食品事業では、清涼飲料市場全体が依然厳しい状況にある中、キリンビバレッジ㈱は「強いブランド創り」と「収益構造改革」に注力しました。

主力ブランドの中でも、特に「キリン 午後の紅茶」、「キリン ファイア」では、カテゴリーの枠にとらわれない新たな提案を通じてブランド価値向上に努めました。「キリン 午後の紅茶」では、2月に発売した「キリン 午後の紅茶 エスプレッソティー」が好調で、発売以来2ヶ月半で年間販売予定数を突破し、目標を当初の2倍に上方修正しました。さらに6月には「キリン 午後の紅茶 無糖プレーンティー」を発売し、緑茶に代表される無糖茶市場における紅茶の可能性を広げました。「キリン ファイア」ブランドでは、5月に、気軽に小腹を満たせる食代替としてキリン初の缶入りコーヒーゼリー飲料「キリン ファイア コーヒーゼリー」を発売し、飲用層・飲用シーンの拡大を図りました。

全面リニューアルした「キリン 生茶」においては、4月に発売した「生茶 朝のうるおうブレンド茶」が好調なスタートを切りました。一方、水、緑茶カテゴリーについては、前年度に引き続き、市場同様に厳しい展開となりました。また、2009年から取り組んでいる収益構造改革については、成果が着実に表れ始めています。

キリン協和フーズ㈱では、価値提案型の開発・営業体制を強化し、収益性向上に向け競争力のある商品の提供に努めました。また、7月1日をもって、メルシャン㈱の加工用酒類・発酵調味料事業部門を統合しました。

海外飲料・食品事業については、キリンビバレッジ㈱が中国において「キリン 午後の紅茶」の発売10年目を機にリニューアルし、キャンペーンを中心としたマーケティング活動を展開するとともに、収益構造改革に取り組みました。

ライオンネイサン ナショナルフーズ社の飲料・食品事業は、乳飲料ならびに果汁飲料市場が、消費者の生活防衛意識やそれに伴う低価格志向の影響から厳しい中、基盤ブランドへの集中と付加価値戦略を通じた商品ミックスの改善を図りました。また、重要な課題であるシナジー創出に向け、更なる事業の合理化や最適化の取り組みも進めました。

これらの結果、主にナショナルフーズ社の決算期変更により売上高は減少しましたが、コスト削減効果等により営業利益は増加しました。

飲料・食品事業部門連結売上高	2,750億円 (前年同期比 21.7%減)
飲料・食品事業部門連結営業利益	25億円 (前年同期比 -)

<医薬事業部門>

協和発酵キリン㈱は、4月に実施された薬価基準の引下げの影響等を受けましたが、主力製品である貧血治療剤「ネスブ」及び「エスポー」、二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「レグパラ」は好調に推移しました。一方、花粉飛散量が前年に比べ少なかった影響により、抗アレルギー剤「アレロック」及び抗アレルギー点眼剤「パタノール」の売上高は、前第2四半期累計期間と比べ下回りました。また、4月にパーキンソン病治療剤「ペルマックス」の発売を開始し、6月に久光製薬株式会社と共同で経皮吸収型持続性がん疼痛治療剤「フェントス」の販売を開始しました。

医薬品の技術収入及び輸出は、導出による一時金収入等の増加に加えて、アジア向けを中心に輸出も好調に推移したことから、前年同期に比べ大幅な増収となりました。

これらの結果、売上高、営業利益はともに増加しました。

医薬事業部門連結売上高	1,033億円 (前年同期比 2.5%増)
医薬事業部門連結営業利益	197億円 (前年同期比 9.6%増)

さらに、新薬の国内開発も順調に進んだほか、海外では、3月に韓国及び台湾において、二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「レグパラ」の承認を取得しました。

〈その他の事業部門〉

協和発酵キリン(株)のバイオケミカル事業では、アジア向けの輸液用アミノ酸や医薬用原料が伸長しました。ヘルスケア製品では、4月より当社グループ各社が展開している“キリンの健康プロジェクト”「キリン プラスアイ」に関連する商品素材や通信販売が好調に推移しました。

協和発酵キリン(株)の化学品事業では、景気の持ち直しに伴う製品需要の回復により、売上高、営業利益ともに前年から大きく改善しました。

これらの結果、主に協和発酵キリン(株)の化学品事業の業績回復により、売上高、営業利益はともに増加しました。

その他の事業部門連結売上高	1,175億円 (前年同期比 7.5%増)
その他の事業部門連結営業利益	27億円 (前年同期比 -)

また、所在地別セグメントの状況は以下のとおりです。

(日本)

酒類事業部門では、キリンビール(株)で「キリン のどごしく生」等の主力商品の強化に加え、新たな商品提案にも積極的に取り組みました。飲料・食品事業部門では、キリンビバレッジ(株)がカテゴリーの枠にとらわれない新たな提案を通じて強いブランド創りに努めるとともに、収益構造改革を進めました。医薬事業部門では、協和発酵キリン(株)で薬価基準の引下げがあった中、主力製品の販売が好調に推移し、その他の事業部門では、需要の回復を受けて化学品事業が好調に推移しました。

連結売上高	8,014億円 (前年同期比 1.8%減)
連結営業利益	534億円 (前年同期比 58.3%増)

(アジア・オセアニア)

アジアでは、キリンビバレッジ(株)が中国等でマーケティング活動に注力するとともに、収益構造改革に取り組みました。豪州ではライオンネイサン ナショナルフーズ社の酒類事業が、主力の豪州ビール事業を中心に好調な販売を維持し、また、飲料・食品事業はシナジー創出の取り組みを進めました。

連結売上高	1,765億円 (前年同期比 15.3%減)
連結営業利益	144億円 (前年同期比 21.9%増)

(その他地域)

アメリカ合衆国、ヨーロッパ諸国など、その他の地域の業績は以下のとおりです。

連結売上高	321億円 (前年同期比 9.9%減)
連結営業利益	30億円 (前年同期比 15.7%減)

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金、投資有価証券の減少等により、前連結会計年度末に比べ959億円減少して2兆7,652億円となりました。

負債は、未払酒税、退職給付引当金、有利子負債の減少等により、前連結会計年度末に比べ1,044億円減少して1兆5,578億円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定の増加等により、前連結会計年度末に比べ84億円増加して1兆2,073億円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、為替レートの見直しと各事業の進捗を加味した結果、下記のとおり修正しております。

【平成22年12月期の連結業績予想】

(金額の単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	2,220,000	133,000	125,000	48,000	50円35銭
今回修正予想(B)	2,180,000	133,000	125,000	35,000	36円72銭
増減額(B-A)	△40,000	—	—	△13,000	—
増減率(%)	△1.8	—	—	△27.1	—
前期実績	2,278,473	128,435	144,614	49,172	51円54銭

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

1) 一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して、一般債権の貸倒見積高を算定しております。

2) 棚卸資産の評価方法

四半期連結会計期間末における棚卸高の算出に関して、実地棚卸を省略し前連結会計年度に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

棚卸資産の簿価切下げに関して収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行っております。

3) 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法により算定しております。

②特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、主として、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第2四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

この変更に伴う損益に与える影響は軽微であります。

②企業結合に関する会計基準等の適用

当第2四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「『研究開発費等に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。

(追加情報)

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

当社は、オセアニアでの総合飲料グループ戦略をさらに推進すべく、平成21年10月にLION NATHAN LTD. (以下、LN)を完全子会社とするとともに、全てのオセアニア事業会社(National Foods Limited (以下、NFL)、LN、及びそれらの子会社)を一元的に統括するためにLion Nathan National Foods Pty Ltd (以下、LNNF)の子会社としました。また、LNNF、NFL及びその子会社の決算日(12月31日)を当連結会計年度より統一し、9月30日に変更いたしました。

当社の第2四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成22年3月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第2四半期連結損益計算書に含めておりません。なお、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

また、前第2四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日)におけるLNNF、NFL及びその子会社の売上高は66,038百万円、営業損失は1,946百万円です。セグメント情報に与える影響は、「セグメント情報」に記載しております。

(連結子会社における不適切な取引)

当社の連結子会社であるメルシャン㈱水産飼料事業部において、過年度からサンプル品出荷の費用未計上、売上計上期の操作などの不適切な会計処理や、架空販売、架空製造、これらを組み合わせた循環取引などの不正行為が継続して行われていたことが明らかになりました。また、当該不正行為を隠蔽するため、内部統制証跡の偽装やダミー品による在庫数量偽装などが行われていたことが明らかになりました。

メルシャン㈱は同社の社内調査委員会による調査結果に基づき、過大に計上されていた売掛金、棚卸資産、売上高及び売上原価の修正等を行いました。これらの修正に関して、当社は過年度分の損失5,300百万円について特別損失の過年度損益修正損として、過年度における繰延税金資産の取崩1,169百万円について過年度法人税等調整額として計上しており

ます。なお、当四半期連結累計期間に発生した損失については、それぞれの科目にて計上しております。

(4) その他

「追加情報」に記載しましたメルシャン㈱における損失については、当社連結財務諸表への影響額が投資者等の利害関係者の判断を誤らせない範囲であると判断されることから、過年度および当年度の損失額を一括して当四半期連結累計期間の連結損益計算書に含めております。

当該処理による当四半期連結累計期間への損失影響は、営業利益および経常利益に対して1,079百万円、税金等調整前四半期純利益に対して6,694百万円、四半期純利益に対して4,203百万円となります。

3. 連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	126,554	125,558
受取手形及び売掛金	356,740	423,835
商品及び製品	140,896	138,937
仕掛品	21,688	18,319
原材料及び貯蔵品	41,082	41,261
その他	81,376	93,815
貸倒引当金	△2,264	△2,278
流動資産合計	766,074	839,450
固定資産		
有形固定資産	763,966	774,274
無形固定資産		
のれん	618,134	605,210
その他	134,011	129,477
無形固定資産合計	752,145	734,688
投資その他の資産		
投資有価証券	362,989	388,677
その他	127,236	128,511
貸倒引当金	△7,172	△4,407
投資その他の資産合計	483,053	512,781
固定資産合計	1,999,165	2,021,743
資産合計	2,765,240	2,861,194

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	161,215	169,936
短期借入金	197,634	259,425
コマーシャル・ペーパー	84,997	—
1年内償還予定の社債	13,038	12,521
未払法人税等	17,396	22,806
引当金	17,484	9,954
その他	237,570	319,452
流動負債合計	729,338	794,096
固定負債		
社債	322,226	324,904
長期借入金	266,817	300,590
退職給付引当金	67,924	85,279
その他の引当金	5,688	6,131
その他	165,890	151,322
固定負債合計	828,547	868,228
負債合計	1,557,886	1,662,324
純資産の部		
株主資本		
資本金	102,045	102,045
資本剰余金	71,593	71,582
利益剰余金	856,731	860,538
自己株式	△30,691	△30,486
株主資本合計	999,679	1,003,680
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,752	18,279
繰延ヘッジ損益	833	△1,548
土地再評価差額金	△4,713	△4,713
為替換算調整勘定	△7,919	△34,375
評価・換算差額等合計	△3,046	△22,357
新株予約権	167	196
少数株主持分	210,553	217,350
純資産合計	1,207,354	1,198,869
負債純資産合計	2,765,240	2,861,194

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)
売上高	1,060,423	1,010,177
売上原価	649,157	608,019
売上総利益	411,265	402,157
販売費及び一般管理費	371,089	342,331
営業利益	40,175	59,826
営業外収益		
受取利息	938	750
受取配当金	4,163	1,894
持分法による投資利益	3,790	7,577
為替差益	16,418	—
その他	3,267	3,303
営業外収益合計	28,577	13,526
営業外費用		
支払利息	9,340	10,828
為替差損	—	4,218
その他	3,024	2,006
営業外費用合計	12,365	17,054
経常利益	56,388	56,298
特別利益		
固定資産売却益	654	2,601
貸倒引当金戻入額	209	—
投資有価証券売却益	22,535	6,800
関係会社株式売却益	—	122
その他	—	2,013
特別利益合計	23,399	11,537
特別損失		
固定資産除却損	3,015	2,799
固定資産売却損	1,700	286
減損損失	3,793	—
投資有価証券評価損	1,820	2,722
投資有価証券売却損	887	186
関係会社株式売却損	21,018	3,824
事業整理損失引当金繰入額	—	2,719
在外会社清算損失引当金繰入額	—	※1 7,534
統合関連費用	2,513	—
たな卸資産評価損	942	—
退職給付制度改定損	—	6,987
過年度損益修正損	—	※2 5,300
その他	155	8,693
特別損失合計	35,846	41,055
税金等調整前四半期純利益	43,940	26,780
法人税等	21,527	15,162
過年度法人税等調整額	—	※2 1,169
少数株主利益	7,457	3,291
四半期純利益	14,955	7,156

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	43,940	26,780
減価償却費	48,040	49,925
のれん償却額	11,013	16,655
受取利息及び受取配当金	△5,101	△2,644
持分法による投資損益 (△は益)	△3,790	△7,577
支払利息	9,340	10,828
為替差損益 (△は益)	△15,847	2,575
有価証券及び投資有価証券売却益	△22,535	△6,800
固定資産廃棄売却損	4,715	3,085
関係会社株式売却損	21,018	3,824
売上債権の増減額 (△は増加)	92,351	64,890
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,366	△6,418
仕入債務の増減額 (△は減少)	△30,444	△4,831
未払酒税の増減額 (△は減少)	△38,097	△38,957
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△10,921	△6,790
預り金の増減額 (△は減少)	△13,065	△13,915
その他	△1,002	2,782
小計	87,247	93,413
利息及び配当金の受取額	7,173	7,626
利息の支払額	△10,628	△9,253
法人税等の支払額	△29,349	△6,947
営業活動によるキャッシュ・フロー	54,443	84,838
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△51,091	△56,416
有形及び無形固定資産の売却による収入	16,710	6,105
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△136,509	△383
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	132,883	14,497
子会社株式の取得による支出	—	△6,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	2,176	703
その他	△191	1,624
投資活動によるキャッシュ・フロー	△36,021	△39,869

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	20,563	△97,211
コマーシャル・ペーパーの増減額(△は減少)	114,968	84,997
長期借入れによる収入	62,083	14,878
長期借入金の返済による支出	△37,936	△15,197
社債の償還による支出	△43,862	△4,914
少数株主への子会社減資による支出	—	△2,058
自己株式の取得による支出	△217	△236
自己株式の売却による収入	113	42
連結子会社による自己株式の取得による支出	△3,874	—
配当金の支払額	△10,975	△10,963
少数株主への配当金の支払額	△11,858	△2,260
その他	△516	410
財務活動によるキャッシュ・フロー	88,487	△32,513
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,430	△10,814
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	111,339	1,640
現金及び現金同等物の期首残高	68,457	118,797
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	178	—
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	23	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	179,999	120,438

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年6月30日)

	酒類 (百万円)	飲料・食品 (百万円)	医薬 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	498,693	351,429	100,909	109,391	1,060,423	—	1,060,423
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	14,477	2,817	413	15,934	33,642	(33,642)	—
計	513,170	354,246	101,322	125,326	1,094,065	(33,642)	1,060,423
営業利益(△は営業損失)	38,384	△6,496	18,003	△408	49,483	(9,307)	40,175

当第2四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年6月30日)

	酒類 (百万円)	飲料・食品 (百万円)	医薬 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	514,216	275,007	103,383	117,570	1,010,177	—	1,010,177
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	12,498	2,824	95	15,805	31,223	(31,223)	—
計	526,715	277,831	103,478	133,375	1,041,401	(31,223)	1,010,177
営業利益	45,463	2,505	19,737	2,732	70,439	(10,613)	59,826

(注) 1 事業区分は、製品の種類、性質を考慮した経営管理上の区分によっております。

2 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
酒類	ビール、発泡酒、新ジャンル、洋酒、エンジニアリング、物流他
飲料・食品	清涼飲料、食品、健康・機能性食品他
医薬	医薬品
その他	バイオケミカル、化学品他

3 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当第2四半期連結累計期間

「追加情報」に記載のとおり、Lion Nathan National Foods Pty Ltd(以下、LNNF)、National Foods Limited(以下、NFL)及びその子会社の決算日(12月31日)を当連結会計年度より9月30日に変更いたしました。

当社の第2四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成22年3月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第2四半期連結損益計算書に含めておりません。

なお、前第2四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日)において「飲料・食品事業」に含まれるLNNF、NFL及びその子会社の売上高は66,038百万円、営業損失は1,946百万円です。

4 連結子会社の事業区分の変更

当第2四半期連結累計期間

従来、Lion Nathan National Foods Pty Ltdは「飲料・食品事業」に含まれておりましたが、「追加情報」に記載のとおり、「酒類事業」及び「飲料・食品事業」を含む全てのオセアニア事業会社（National Foods Limited、Lion Nathan LTD.、及びそれらの子会社）を一元的に統括する会社となったことから、第1四半期連結会計期間より「その他事業」に事業区分を変更することといたしました。これにより、「その他事業」の営業利益が1,987百万円減少しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年6月30日)

	日本 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	816,300	208,441	35,680	1,060,423	—	1,060,423
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	11,041	1,663	3,780	16,485	(16,485)	—
計	827,341	210,105	39,461	1,076,908	(16,485)	1,060,423
営業利益	33,740	11,838	3,602	49,181	(9,005)	40,175

当第2四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年6月30日)

	日本 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	801,438	176,578	32,161	1,010,177	—	1,010,177
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	16,037	2,135	4,345	22,518	(22,518)	—
計	817,475	178,713	36,507	1,032,696	(22,518)	1,010,177
営業利益	53,404	14,428	3,035	70,867	(11,041)	59,826

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度を考慮して区分しております。

2 日本以外の区分に属する主な国又は地域

地域区分	主要な国又は地域
アジア・オセアニア	東アジア、東南アジア、オセアニア諸国
その他	アメリカ合衆国

3 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当第2四半期連結累計期間

「追加情報」に記載のとおり、Lion Nathan National Foods Pty Ltd (以下、LNNF)、National Foods Limited (以下、NFL) 及びその子会社の決算日(12月31日)を当連結会計年度より9月30日に変更いたしました。

当社の第2四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成22年3月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第2四半期連結損益計算書に含めておりません。

なお、前第2四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日)において「アジア・オセアニア」に含まれるLNNF、NFL及びその子会社の売上高は66,038百万円、営業損失は1,946百万円です。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年6月30日)

	アジア・オセアニア	その他	計
I 海外売上高(百万円)	218,157	46,535	264,693
II 連結売上高(百万円)	—	—	1,060,423
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	20.6	4.4	25.0

当第2四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年6月30日)

	アジア・オセアニア	その他	計
I 海外売上高(百万円)	191,070	44,929	236,000
II 連結売上高(百万円)	—	—	1,010,177
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	18.9	4.5	23.4

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度を考慮して区分しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

地域区分	主要な国又は地域
アジア・オセアニア	東アジア、東南アジア、オセアニア諸国
その他	アメリカ合衆国

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

4 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当第2四半期連結累計期間

「追加情報」に記載のとおり、Lion Nathan National Foods Pty Ltd(以下、LNNF)、National Foods Limited(以下、NFL)及びその子会社の決算日(12月31日)を当連結会計年度より9月30日に変更いたしました。

当社の第2四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成22年3月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第2四半期連結損益計算書に含めておりません。

なお、前第2四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日)において、LNNF、NFL及びその子会社の売上高は、「アジア・オセアニア」に65,459百万円、「その他」に218百万円含まれております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) その他注記情報

(四半期連結損益計算書関係)

※1 在外会社清算損失引当金繰入額

清算予定の在外連結子会社について、清算時の為替換算調整勘定取崩しにより生じる損失見込額を計上したものであります。

※2 過年度損益修正損、過年度法人税等調整額

「追加情報」に記載のとおり、連結子会社であるメルシャン㈱における過年度決算訂正に伴う損失額を計上しております。

平成22年12月期 第2四半期決算補足説明資料

1. 損益状況
2. 売上高明細
3. 主な利益増減内容（第2四半期実績）
4. 主要費用等
5. 貸借対照表の主要増減内容
6. 主な利益増減内容（通期予想）

（参考資料）

1. キリングroup連結財務指標ガイド
2. セグメント別情報
3. 主な連結会社別損益
4. 酒類売上明細（キリンビール）
5. 清涼飲料売上明細（キリンビバレッジgroup）
6. 主要医薬品売上高（協和発酵キリン）

キリンホールディングス株式会社
平成22年8月16日

1. 損益状況

	平成21年度				平成22年度			
	第2四半期 (実績)		通期(実績)		第2四半期 (実績)		通期(予想)	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
売上高 (対前年増率)	10,604	1.2	22,784	△1.1	10,101	△4.7	21,800	△4.3
営業利益 (対前年増率)	401	△15.5	1,284	△12.0	598	48.9	1,330	3.6
経常利益 (対前年増率)	563	18.4	1,446	40.3	562	△0.2	1,250	△13.6
四半期(当期)純利益 (対前年増率)	149	△81.6	491	△38.7	71	△52.2	350	△28.8
EBITDA ※ (対前年増率)	905	△17.2	2,128	△19.6	1,044	15.3	2,520	18.4

※ EBITDA = 営業利益+持分法による投資損益+減価償却費+のれん償却額+特別損益

2. 売上高明細

	平成21年度				平成22年度			
	第2四半期 (実績)		通期(実績)		第2四半期 (実績)		通期(予想)	
	千KL	%	千KL	%	千KL	%	千KL	%
売上数量 (対前年増率)								
酒類								
ビール・発泡酒・新ジャンル	1,557	0.4	3,259	△2.0	1,513	△2.8	3,176	△2.6
飲料 ※1	107	△5.1	225	△6.6	101	△5.7	219	△2.5
百万C/S								
売上高内訳 (対前年増率)	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
総売上高	10,604	1.2	22,784	△1.1	10,101	△4.7	21,800	△4.3
酒類	4,986	△8.6	10,976	△7.1	5,142	3.1	10,955	△0.2
ビール・発泡酒・新ジャンル	4,087	△7.6	8,917	△7.1	4,139	1.3	8,870	△0.5
その他の酒類 ※2	761	△4.4	1,702	△1.8	836	9.8	1,775	3.1
その他	137	△40.9	356	△26.3	166	20.5	330	△7.4
飲料・食品	3,514	2.1	7,350	2.6	2,750	△21.7	6,500	△11.6
医薬品	1,009	44.8	2,067	20.5	1,033	2.5	2,050	△0.9
その他	1,093	23.3	2,389	2.2	1,175	7.5	2,295	△4.0
バイオケミカル	368	82.4	794	34.4	382	3.7	700	△12.0
化学品	238	10.0	557	△17.0	579	142.5	1,210	117.1
その他	486	3.8	1,037	△3.5	214	△56.0	385	△62.9

※1 ライオンネイサン ナショナルフーズ社における飲料事業の販売数量は含まれておりません。

※2 清涼発泡飲料を含んでおります。

3. 主な利益増減内容(第2四半期実績)

(単位:億円)

セグメント	会社名	要因	差異	内容
酒類	キリンビール	酒類限界利益減	△20	ビール販売数量減 △27千kl △33億 発泡酒販売数量減 △37千kl △36億 新ジャンル販売数量増 12千kl 13億 RTD販売数量増 4千kl 5億 焼酎・洋酒限界利益減 △8億 品種構成による差異 他
		原材料コストダウン	17	砂糖・液糖価格安 5億、包装資材価格安 10億 他
		販売費減	13	販売促進費・広告費減 11億 他 (ビール・発泡酒・新ジャンル 13億、RTD △7億、 焼酎・洋酒 11億 他)
		その他費用減	29	退職給付費用減 12億、消耗品費減 10億、減価償却費減 3億、 情報システム費減 3億、マネジメントフィ等増 △17億 他
		計	39	
	ライオンネイサン ナショナルフーズ ※1	営業利益増	87	189億 → 277億
		のれん償却額	△72	△22億 → △94億
		ブランド償却費	△7	△24億 → △31億
		計	8	
	メルシャン		6	△7億 → △1億
その他		17		
計		70	H21年度第2四半期 383億 → H22年度第2四半期 454億	
飲料・食品	キリンビバレッジ	数量差異	△70	販売数量減 △643万ケース
		コストダウン	10	原材料コストダウン 他
		容器構成差異等	△5	販売促進費売上控除 △11億 他
		販売費減	92	販売促進費・広告費減 80億 (販売促進費売上控除 11億 他)、運搬費減 12億
		その他費用減	2	減価償却費減 4億、マネジメントフィ等増 △4億 他
	計	29		
ライオンネイサン ナショナルフーズ ※2	営業利益増	17	17億 → 34億	
	のれん償却額	19	△37億 → △18億	
	ブランド償却費	1	△11億 → △9億	
計	38			
その他		22		
計		90	H21年度第2四半期 △64億 → H22年度第2四半期 25億	
医薬	協和発酵キリン ※1		17	売上総利益増 25億 研究開発費増 △10億 その他費用減 2億
計			17	H21年度第2四半期 180億 → H22年度第2四半期 197億

セグメント	要因	差異	内容
その他	協和発酵キリン バイオケミカル	△3	21億 → 18億
	協和発酵キリン 化学品	72	△56億 → 15億
	メルシャン	△16	4億 → △12億
	その他	△20	ライオンネイサン ナショナルフーズ本社費用 他
計	31	H21年度第2四半期 △4億 → H22年度第2四半期 27億	
消去又は全社		△13	H21年度第2四半期 △93億 → H22年度第2四半期 △106億
営業利益増		196	H21年度第2四半期 401億 → H22年度第2四半期 598億
営業外損益	金融収支	△39	△42億 → △81億
	持分法による投資損益	37	サンミゲル 6億 サンミゲルビール 43億 (現地持分損益 81億、投資差額償却額 △29億、 ブランド償却費 △8億)
	為替差損益	△206	キリンアムジェン △20億 他 164億 → △42億
	その他	10	
計		△197	
経常利益減		△0	H21年度第2四半期 563億 → H22年度第2四半期 562億
特別損益	投資有価証券売却益	△157	
	減損損失	37	
	関係会社株式売却損	171	
	在外会社清算損失引当金繰入額	△75	
	退職給付制度改定損	△69	
	過年度損益修正損	△53	メルシャン
	その他	△25	
計		△170	
法人税等及び 少数株主利益	法人税等	63	
	過年度法人税等調整額	△11	メルシャン
	少数株主利益	41	
計		93	
第2四半期純利益減		△77	H21年度第2四半期 149億 → H22年度第2四半期 71億

※1 連結財務諸表上組み替えを行っており、上記は組み替え後の金額であります。

※2 決算期変更による影響については、13ページのセグメント情報をご覧ください。

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成21年度第2四半期実績	平成22年度第2四半期実績
ライオンネイサン ナショナルフーズ(酒類) (オーストラリアドル) (円)	63.20	81.69
ライオンネイサン ナショナルフーズ(飲料・食品) (オーストラリアドル) (円)	68.87	81.58
サンミゲルビール(フィリピンペソ) (円)	—	1.96

4. 主要費用等

(単位: 億円)

	平成21年度		平成22年度	
	第2四半期 (実績)	通期 (実績)	第2四半期 (実績)	通期 (予想)
販売促進費	918	1,927	745	} 2,290
広告費	362	682	347	
(販売促進費・広告費のうち)				
キリンビール				
販売促進費	195	452	188	} 788
広告費	201	376	197	
キリンビバレッジ ※1				
販売促進費	520	1,042	453	} 1,075
広告費	58	96	45	
研究開発費	265	585	266	600
減価償却費 ※2	480	1,058	499	1,100
のれん償却額 ※3	110	216	166	330
金融収支	△42	△114	△81	△170
設備投資額 (支払)	510	1,102	564	1,000
キャッシュ・フロー	1,113	515	16	△300
営業活動	544	1,899	848	2,100
投資活動	△360	△3,216	△398	△1,450
財務活動	884	1,742	△325	△950

※1 キリンビバレッジ連結の数値(飲料・食品)であります。

※2 ブランド償却費を含んでおります。

※3 投資差額償却額、営業権償却費

5. 貸借対照表の主要増減内容

(単位：億円)

	平成21年度末	平成22年度 第2四半期末	増減	内容
(資産の部)				
流動資産				
受取手形及び売掛金	4,238	3,567	△670	・前年度末が休日による減少 他
その他	938	813	△124	・キリンホールディングスの法人税等の還付による未収還付法人税等の減少 他
固定資産				
有形固定資産	7,742	7,639	△103	・アグリバイオ事業の売却による減少 他
のれん	6,052	6,181	129	・豪州連結子会社の為替影響による増加 他
投資有価証券	3,886	3,629	△256	・キリンホールディングス保有株式の株価変動による評価差額の減少に伴う減少 他
(負債の部)				
流動負債				
短期借入金	2,594	1,976	△617	・キリンホールディングスの減少 他
コマーシャル・ペーパー	—	849	849	・キリンホールディングスのCP発行による増加
その他	3,194	2,375	△818	・前年度末が休日による未払酒税の減少 他
固定負債				
長期借入金	3,005	2,668	△337	・短期借入金への振替による減少 他
退職給付引当金	852	679	△173	・退職給付制度改定による長期未払金への振替による減少 他
その他	1,513	1,658	145	・退職給付制度改定による退職給付引当金から長期未払金への振替による増加 他
(純資産の部)				
為替換算調整勘定	△343	△79	264	・豪ドルに対する円安による増加 他

6. 主な利益増減内容 (通期予想)

(単位: 億円)

セグメント	会社名	要因	差異	内容
酒類	キリンビール	酒類限界利益減	△79	ビール販売数量減 △60千kl △75億 発泡酒販売数量減 △79千kl △82億 新ジャンル販売数量増 32千kl 35億 RTD販売数量増 4千kl 5億 焼酎・洋酒限界利益減 △7億 品種構成による差異 他
		原材料コストダウン	39	麦芽価格安、砂糖・液糖価格安、包装資材価格安 他
		販売費減	40	販売促進費・広告費減 41億 他
		その他費用減	21	退職給付費用減 24億、消耗品費減 14億、 情報システム費減 12億、減価償却費減 10億、 マネジメントフィ等増 △37億 他
	計		21	
	ライオンネイサン ナショナルフーズ ※1		△30	284億 → 254億
	その他		36	マネジメントフィ等の変動 他
計			27	H21年度実績 1,028 → H22年度予想 1,055
飲料・食品	キリンビバレッジ	数量差異	△64	販売数量減 △612万ケース
		コストダウン	10	原材料コストダウン 他
		容器構成差異等	△5	販売促進費売上控除 △11億 他
	販売費減	81	販売促進費・広告費減 63億 (販売促進費売上控除 11億 他)、運搬費減 18億	
その他費用増	△9	研究開発費増 △3億、減価償却費減 8億、 マネジメントフィ等増 △12億 他		
計		13		
	ライオンネイサン ナショナルフーズ		26	13億 → 39億
	その他		20	マネジメントフィ等の変動 他
計			59	H21年度実績 70 → H22年度予想 130
医薬	協和発酵キリン ※1		△23	売上総利益減 △13億 研究開発費増 △4億 その他費用増 △6億
計			△23	H21年度実績 343 → H22年度予想 320
その他	協和発酵キリン バイオケミカル		1	39億 → 40億
	協和発酵キリン 化学品		95	△55億 → 40億
	その他		△79	ライオンネイサン ナショナルフーズ本社費用 他
計			16	H21年度実績 38 → H22年度予想 55
消去又は全社			△33	H21年度実績 △196 → H22年度予想 △230
営業利益増			45	H21年度実績 1,284 → H22年度予想 1,330

	要因	差異	内容
営業外損益	金融収支 持分法による投資損益 為替差損益 その他	△55 22 △208 0	△114億 → △170億 サンミゲルビール ※2 38億 (現地持分損益 77億、投資差額償却額 △30億、 ブランド償却費 △9億) 他
計		△241	
経常利益減		△196	H21年度実績 1,446 → H22年度予想 1,250
特別損益	投資有価証券売却益 減損損失 関係会社株式売却損 退職給付制度改訂損 過年度損益修正損 在外会社清算損 その他	△231 388 151 △69 △53 △75 60	メルシャン
計		170	
法人税等及び 少数株主利益	法人税等 少数株主利益	△158 42	
計		△115	
当期純利益減		△141	H21年度実績 491 → H22年度予想 350

※1 連結財務諸表上組み替えを行っており、上記は組み替え後の金額であります。

※2 平成22年度予想値については業績予想非公表のため、平成20年10月から平成21年9月の実績外貨額（為替換算レートは見直し）を基礎として算定しております。

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成21年度実績	平成22年度予想
ライオンネイサン ナショナルフーズ(酒類) (オーストラリアドル) (円)	70.04	80.00
ライオンネイサン ナショナルフーズ(飲料・食品) (オーストラリアドル) (円)	74.57	80.00
サンミゲルビール(フィリピンペソ) (円) ※2	1.99	2.00

参考資料

1. キリングループ連結財務指標ガイド

		平成21年度 (実績)	平成22年度 第2四半期 (実績)	平成22年度 修正前(予想) 2/10公表	平成22年度 (予想)	
定量 目標	売上高(億円)	酒税抜き	19,187	8,562	18,600	18,350
	営業利益(億円)	のれん等償却前	1,577	796	1,750	1,750
		のれん等償却後	1,284	598	1,330	1,330
	営業利益率(%)	対酒税抜き・のれん等償却前	8.2	9.3	9.4	9.5
		対酒税抜き・のれん等償却後	6.7	7.0	7.2	7.3
ROE(%)	のれん等償却前	8.3	3.0	9.5	8.3	

ガイ ド ラ イ ン	セグメント別 売上高(億円)	酒類	10,976	5,142	11,150	10,955
		飲料・食品	7,350	2,750	6,720	6,500
		医薬	2,067	1,033	2,050	2,050
		その他	2,389	1,175	2,280	2,295
	セグメント別 営業利益(億円)	酒類	1,028	454	1,050	1,055
		飲料・食品	70	25	130	130
		医薬	343	197	320	320
		その他	38	27	60	55
		消去又は全社	△196	△106	△230	△230
	売上高(億円)	酒税込み	22,784	10,101	22,200	21,800
	海外比率(%)	酒税抜き売上高	27	24	25	25
	E B I T D A (億円)		2,128	1,044	2,800	2,520
	のれん等償却額(億円)		330	237	493	※ 496
	E P S (円)	のれん等償却前	82	32	102	88
D/Eレシオ		0.91	0.89	0.72	0.84	
総資産回転率	酒税抜き売上高	0.70	0.30	0.67	0.65	

※ のれん等償却額：ライオンネイサン231 (ブランド償却費57、投資差額償却額162、営業権償却費11)
 キリンビバレッジ19 (投資差額償却額)
 ナショナルフーズ81 (ブランド償却費28、投資差額償却額53)
 協和発酵キリン及びキリン協和フーズ67 (投資差額償却額)
 ジェイ・ボーグ・アンド・サン18 (ブランド償却費4、投資差額償却額13)
 サンミゲルビール76 (ブランド償却費16、投資差額償却額59) 他

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成21年度 (実績)	平成22年度 第2四半期 (実績)	平成22年度 修正前(予想) 2/10公表	平成22年度 (予想)
ライオンネイサン ナショナルフーズ(酒類) (オーストラリアドル) (円)	70.04	81.69	80.00	80.00
ライオンネイサン ナショナルフーズ(飲料・食品) (オーストラリアドル) (円)	74.57	81.58	80.00	80.00
サンミゲルビール (フィリピンペソ) (円)	1.99	1.96	1.80	2.00

2. セグメント別情報

平成21年度

(単位：億円)

	酒類		飲料・食品		医薬		その他		消去又は全社		合計	
	第2四半期 (実績)	通期 (実績)										
減価償却費 ※1	229	484	124	277	34	109	79	170	11	17	480	1,058
のれん償却額 ※2	23	50	53	99	30	60	2	6	—	—	110	216
EBITDA ※3	615	1,187	77	341	241	471	57	187	△86	△60	905	2,128
設備投資	244	502	90	177	48	159	80	153	48	109	510	1,102
研究開発費	24	54	14	29	186	419	27	53	12	27	265	585

※1 ブランド償却費を含む

※2 投資差額償却額、営業権償却費

※3 EBITDA = 営業利益+持分法による投資損益+減価償却費+のれん償却額+特別損益

平成22年度

(単位：億円)

	酒類		飲料・食品		医薬		その他		消去又は全社		合計	
	第2四半期 (実績)	通期 (予想)										
減価償却費 ※1	240	508	104	264	45	115	100	194	8	17	499	1,100
のれん償却額 ※2	95	189	36	78	30	58	4	4	—	—	166	330
EBITDA ※3	762	1,673	152	405	267	505	45	166	△184	△230	1,044	2,520
設備投資	205	414	65	157	163	210	78	137	50	79	564	1,000
研究開発費	24	55	13	31	193	421	23	61	11	30	266	600

※1 ブランド償却費を含む

※2 投資差額償却額、営業権償却費

※3 EBITDA = 営業利益+持分法による投資損益+減価償却費+のれん償却額+特別損益

3. 主な連結会社別損益

平成22年度第2四半期実績

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結純利益
キリンビール ※1	3,725	283	—	—	—
マネジメントフィ等 ※2		△59	—	—	—
差引調整後	3,725	224	—	—	—
メルシャン	352	△13	△13	△25	△13
ライオンネイサン ナショナルフーズ ※3	1,659	292	—	—	—
ブランド償却費		△41	—	—	—
のれん償却額		△112	—	—	—
差引調整後	1,659	138	—	—	—
キリンビバレッジ	1,652	8	—	—	—
マネジメントフィ等 ※2		△17	—	—	—
のれん償却額		△9	—	—	—
差引調整後	1,652	△19	—	—	—
協和発酵キリン	2,034	216	223	99	50
のれん償却額消去		46	46	46	23
のれん償却額		△31	△31	△31	△31
差引調整後	2,034	231	238	114	42
サンミゲルビール(関連会社)	589	183	216	168	* 81
持分法による投資損益 *			* 81	81	81
ブランド償却費 ※4			△8	△8	△8
投資差額償却額 ※4			△29	△29	△29
差引調整後			43	43	43

※1 単社の数値であります。

※2 キリンホールディングスへのグループ経営の対価・KIRINブランドの使用対価

※3 損益の取込期間については、6ページ「追加情報」をご覧ください。

※4 科目：持分法による投資損益

平成22年度予想

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結純利益
キリンビール ※1	8,172	750	—	—	—
マネジメントフィ等 ※2		△130	—	—	—
差引調整後	8,172	620	—	—	—
メルシャン	790	△4	△3	△23	△11
ライオンネイサン ナショナルフーズ ※3	3,850	575	—	—	—
ブランド償却費		△90	—	—	—
のれん償却額		△240	—	—	—
差引調整後	3,850	243	—	—	—
キリンビバレッジ	3,576	75	—	—	—
マネジメントフィ等 ※2		△39	—	—	—
のれん償却額		△19	—	—	—
差引調整後	3,576	16	—	—	—
協和発酵キリン	4,070	375	390	200	101
のれん償却額消去		93	93	93	47
のれん償却額		△62	△62	△62	△62
差引調整後	4,070	405	420	230	85
サンミゲルビール(関連会社) ※4	1,010	322	338	249	* 120
持分法による投資損益 *			* 120	120	120
ブランド償却費 ※5			△16	△16	△16
投資差額償却額 ※5			△59	△59	△59
差引調整後			44	44	44

※1 単社の数値であります。

※2 キリンホールディングスへのグループ経営の対価・KIRINブランドの使用対価

※3 損益の取込期間については、6ページ「追加情報」をご覧ください。

※4 平成20年10月から平成21年9月の実績外貨額を基礎として平成22年度予想値としております。

※5 科目：持分法による投資損益

4. 酒類売上明細 (キリンビール)

	平成21年度				平成22年度			
	第2四半期 (実績)		通期 (実績)		第2四半期 (実績)		通期 (予想)	
売上数量 (対前年増率)	千KL	%	千KL	%	千KL	%	千KL	%
ビール	358	△6.2	799	△7.9	330	△7.7	739	△7.6
発泡酒	348	△8.1	726	△10.4	310	△10.7	647	△11.0
新ジャンル	312	24.0	714	17.8	324	4.0	746	4.5
計	1,018	0.6	2,240	△2.0	966	△5.1	2,132	△4.8
RTD	91	9.6	199	△1.9	95	4.2	203	1.8
清涼発泡飲料	14	497.8	51	807.1	33	126.7	75	46.2
売上高 (対前年増率)	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
ビール	1,472	△5.5	3,298	△7.5	1,363	△7.4	3,053	△7.5
発泡酒	1,061	△7.5	2,217	△10.1	948	△10.7	1,972	△11.1
新ジャンル	819	24.5	1,874	18.1	851	3.9	1,958	4.4
計	3,353	△0.3	7,391	△3.0	3,163	△5.7	6,983	△5.5
RTD	245	9.6	541	△0.5	261	6.2	556	2.7
焼酎・洋酒・その他	223	4.0	522	19.7	266	18.8	566	8.4

※ 上記売上数量、売上高には輸出分を含んでおります。

5. 清涼飲料売上明細(キリンビバレッジグループ)

<カテゴリ別販売実績(連結)>

(単位:万ケース)

清涼飲料			平成21年度 第2四半期(実績)		平成22年度 第2四半期(実績)				平成21年度 通期(実績)		平成22年度 通期(予想)
			販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	販売数量
カテゴリー別	茶系飲料	日本茶	1,202	13%	1,050	12%	△152	87%	2,475	13%	2,300
		烏龍茶	155	2%	139	2%	△16	90%	342	2%	280
		紅茶	1,772	20%	2,005	24%	233	113%	3,798	20%	4,150
		計	3,129	35%	3,194	38%	65	102%	6,615	35%	6,730
	コーヒー飲料	1,761	19%	1,646	20%	△115	93%	3,692	19%	3,700	
	果実・野菜飲料	1,098	12%	938	11%	△160	85%	2,312	12%	1,950	
	炭酸飲料	355	4%	423	5%	68	119%	821	4%	1,000	
	水	1,626	18%	1,296	15%	△330	80%	3,364	18%	2,950	
	その他	735	8%	597	7%	△138	81%	1,502	8%	1,340	
	国内市場清涼飲料計		8,704	96%	8,094	96%	△610	93%	18,306	96%	17,670
海外市場清涼飲料計		372	4%	339	4%	△33	91%	706	4%	730	
清涼飲料計		9,076	100%	8,433	100%	△643	93%	19,012	100%	18,400	

<容器別販売実績(連結)>

(単位:万ケース)

清涼飲料			平成21年度 第2四半期(実績)		平成22年度 第2四半期(実績)				平成21年度 通期(実績)		平成22年度 通期(予想)
容器別	区分	内訳	販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	販売数量
缶容器	缶	ボトル缶を含む	2,286	25%	2,194	26%	△92	96%	4,787	25%	4,600
PET容器	大型PET	2L	1,613	18%	1,309	16%	△304	81%	3,368	18%	3,100
		1.5L、1L、 900ml、750ml	744	8%	673	8%	△71	90%	1,553	8%	1,500
		大型PET計	2,357	26%	1,982	24%	△375	84%	4,921	26%	4,600
	小型PET	500ml	2,384	26%	2,274	27%	△110	95%	4,986	26%	4,900
		350ml以下	606	7%	643	8%	37	106%	1,279	7%	1,400
		小型PET計	2,990	33%	2,917	35%	△73	98%	6,265	33%	6,300
PET合計		5,347	59%	4,899	59%	△448	92%	11,186	59%	10,900	
その他容器	ワンウェイ・リターナブル壺、 紙、ギフト 他		1,071	12%	1,001	11%	△70	93%	2,333	12%	2,170
海外市場清涼飲料計		372	4%	339	4%	△33	91%	706	4%	730	
清涼飲料計		9,076	100%	8,433	100%	△643	93%	19,012	100%	18,400	

6. 主要医薬品売上高(協和発酵キリン)

(単位:億円)

	平成21年度		平成22年度	
	第2四半期 (実績)	通期(実績)	第2四半期 (実績)	通期(予想)
ネスブ/エスポー	221	489	234	483
グラン/ノイアップ	76	170	73	151
コニール	110	233	103	213
アレロック	152	267	139	260
レグバラ	29	68	43	86
パタノール	53	74	47	75
トピナ	6	15	9	19

※ 実績・予想とも国内仕切価ベース(割戻金除く)の表示であります。